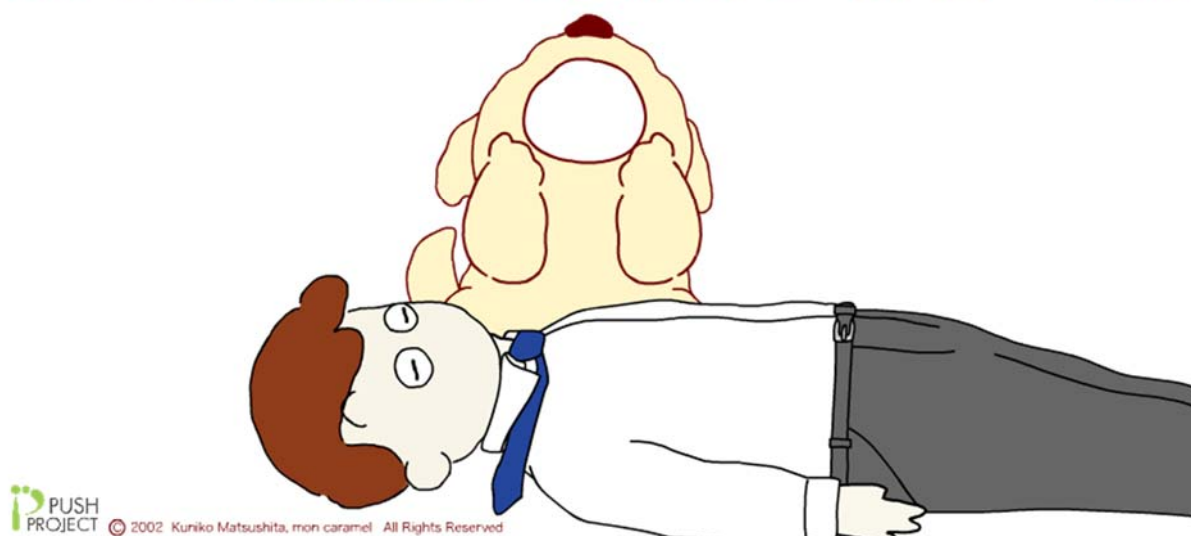


H30 年度 新入生 3000 名への救命講習会 実施報告書

119番とAEDおねがいしまーす!



2018/06/12

Ver.1

救命救急講習 Project Team 作成

目 次

I. 背景	1
II. 理念	1
III. 目的	1
IV. 方法	2-4
V. 結果	5-10
VI. まとめ	10
VII. 救命救急講習 Project Team メンバー	11
VIII. 謝辞	11
IX. 参考文献	12
X. 資料	
インストラクター用手順書	

I. 背景

心停止に陥った人を救命するためには、迅速な心肺蘇生の実施と自動体外式除細動器 (Automated External Defibrillator, AED) の使用が極めて重要である。¹ 京都大学構内にも 120 台以上の AED が設置されているが、残念なことに救命処置が実施されずに死亡した事例が発生している。心停止発生に備えた学校の安全管理体制を強化するためには、在学生・教職員に加え、新たに京都大学に加わるものすべてが、緊急事態への対応能力をもつことは不可欠である。

心停止の現場において、心肺蘇生の講習会を受講者していたものは、未受講者と比べて約 3 倍心肺蘇生を実施していた。² 2015 年 10 月には、5 年ぶりに改訂された蘇生ガイドラインが改訂され、¹ その中でも「市民はあらかじめ心肺蘇生のトレーニングを受けておく」と記載されており、実際の心停止現場で行動が起こせる人の育成は喫緊の課題である。京都大学では、H27 年度から医学研究科・人間健康科学、環境安全保健機構、医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部、医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター、国際高等教育院と連携を図り、新入生へのガイダンスにおいて新入生約 3 千人を対象に、胸骨圧迫と AED の使い方を指導する救命講習会を始めた。³ この講習会で人命救助の手技を学生に指導し、「いのち」の大事さを教育することは、「教養が豊かで人間性が高く責任を重んじる人材」を育成する京都大学の教育理念にも一致しているものであり (<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/profile/intro/ideals/basic/>)、H29 年度に引き続き、H30 年度も行った救命講習会について以下に報告する。本学ではこれが 4 回目の取り組みになる。

II. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習である。新入生全員が、CPR/AED (心肺蘇生/自動体外式除細動器) を体験しながら、救命救急について学ぶ。実際に心肺停止に遭遇した場合にも躊躇なく救命行動ができるように、心肺蘇生法の中でも一番大事なポイントを修得する。新入生は、2 人ひと組のペアをつくって、協力しあいながら、心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」を使って蘇生法を体験する。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えること、また、1 回生どうしのペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮する。

III. 救命講習会の目的

1. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに 119 番通報を行い、迅速に心肺蘇生 (胸骨圧迫) を実施し、AED を使用するという救命処置の流れを理解することができる。
2. 心肺蘇生や AED を使用することで、救えるいのちがあることを知りいのちの尊さを考える。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

Ⅳ. 方法

1. 対象

平成 30 年度京都大学に入学予定の全学部生 2,961 人

2. 実施枠組みと日程

4/3(火)から 4/5(木)14:00-16:30 まで、計 3 回に渡って行われる全学支援機構ガイダンス(2 時間 30 分)の時間枠のうち 40 分間を用いて実施した。学生数が多いので、1 回あたりのガイダンスを受ける学生は約 1,000 人(200-300 人ずつ 4 部屋)とした。

1 回目:4 月 3 日(火)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	205	187	351	192
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

2 回目:4 月 4 日(水)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	226	254	342	202
学部	文学部	経済学部 (編入生除く)	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部 (編入生)

3 回目:4 月 5 日(木)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	243	245	334	180
学部	工学部 (物理工学科)	工学部 (工業科学科)	工学部 (地球工学科) (電気電子工学科)	工学部 (建築学科) (情報学科)

3. 場所

吉田南 4 号館 4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)

4. 教育プログラム

1)トレーニングキット「あっぱくん®」

心肺蘇生のトレーニングキット「あっぱくん®」約 600 個を準備し、2 人で 1 個使用した(次項

左写真)。あっぱくん®は、ガイダンス前週の 4/2(月)に、あらかじめ準備担当の教員と学部生とで 600 個のあっぱくん®を机の中にセットした(下記右写真)。



2) 時間割り

胸骨圧迫と AED の使い方を 1 人につき 1 体のトレーニングキットを用い、45 分間で多人数に対して指導を行う教育プログラムは、科学的検証を行い確立されている。⁴ 今回は、このプログラムを 40 分に短縮して行った。(X. 参考資料「サポートスタッフ手順書」参照)

3) インストラクターおよびサポートスタッフ

各部屋に 1 名のインストラクターと、学生 20 名につき約 1 名のサポートスタッフを配置した。対象となる学生数が多いため、インストラクターは、普段からあっぱくん®を使った講習会を実施している、熟練指導者を配置した。サポートスタッフは、人間健康科学の全ての教員、スポーツ実習の非常勤教員、国際高等教育院の教員、初期診療・救急医学分野の教員および医員でこの救命講習会に賛同してもらえる参加者を募った。

5. 準備

1) 吉田南 4 号館の準備

下記について、H29 年 4 月の講習会終了後から複数回に渡って、Project Team メンバーで会議をもち入念に下準備をおこなった

✓ あっぱくん®の配置の方法

(あっぱくん®が壊れないようにするため、あらかじめ蓋を軽く開けて机の下に設置。壊れたあっぱくん®の修理も含む)

✓ 教員配置の方法

✓ 実習を行う上での安全面への配慮(可動式の机の使用に関しては机の強度の確認)

✓ 各インストラクターが部屋で使用する PC と音響の動作確認

✓ 物品の保管場所の確認(3F 308 演習室)

✓ 学内あっぱくん®の数の確認と運搬方法

2) サポートスタッフの確保

20 人に 1 名のサポートスタッフ教員が必要であり、1 回講習会あたり 1,000 人指導するには

1 回あたり約 50 人前後のサポートスタッフ教員を要する。人間健康科学にとっては、この講習会は専攻全体の取り組みであるため、H30 年度も全ての教員がサポートスタッフとして参加した。H30 年 1 月から国際高等教育院、スポーツ実習、初期診療・救急医学分野でもサポートスタッフの募集を行った。

3) 手順書の作成

救命講習会に携わる全ての教員に、この講習会の理念、目的、手順をあらかじめ知ってもらうために手順書を作成した。初めて心肺蘇生講習会を指導する側に立つ教員、あっぱくん[®]を使った講習会に初めて参加する教員にもイメージしてもらいやすいように、絵や写真を盛り込み工夫をした。救命講習会の約 2 週間前、全てのサポートスタッフの教員に手順書を手渡した。人間健康科学では、H30 年 3 月 15 日(木)にあった FD の時間を使って、全教員に手順書を見ながら説明を行った。

また、4 人のインストラクターが各部屋で講習会を行うため、インストラクターごとに教育の質が異ならないように、インストラクター間で進行について確認を行った。

4) あっぱくんの確保と配備

学内のいくつかの部局にあるあっぱくん[®]全 580 個を集め、H30 年 4 月 2 日(月)9:00 から、準備係の教員と学部学生とで、講習を行う 4 部屋の机の下にあらかじめセットした。

国際高等教育院: 300 個

研修センター: 168 個

健康科学センター: 112 個

V. 結果

まず講習会の流れについて、写真等を用いて概要を説明する。

メッセージ ビデオ	・講習会を始める前、心停止で子供を亡くされた親御さんたち、心停止から生還された方たち協力のもと作成した、約 5 分間のメッセージビデオを視聴し、なぜこの講習会を学んでもらいたいのか、動機づけを行った。 ・学生は、真剣に DVD を見ていた。	
胸骨圧迫 の練習	・学生たちは、DVD を見ながらよく笑っていた。 ・あっぱくんを使って胸骨圧迫の練習。結構強く押さないと止まってしまった心臓の代わりに血液や酸素を全身に送ることをできないことを説明した。	  

	・強く、早く、絶え間なく、隣の学生が胸骨圧迫できるように応援していた。	
AED の使い方	・あっぱくん®に含まれている紙 AED を、あっぱくん®に貼っている様子。	

1. 4月3日(火)(1回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 935 人であり、843 人からアンケートの回収ができた(回収割合 90.2%)。526 人(66.7%)が男性であった。

2) 教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 2 人、環境安全保健機構 1 人、理学部 1 人)

サポートスタッフ数 52 人

(人間健康科学 43 人、スポーツ実習 4 人、国際高等教育院 1 人、救急部 4 人)

カメラ係 4 人

(人間健康科学 学部生)

2. 4月4日(水)(2回目)

1) 学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 1,024 人であり、748 人からアンケートの回収ができた(回収割合 73.0%)。488 人(65.2%)が男性であった。

2)教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 2 人、環境安全保健機構 1 人、理学部 1 人)

サポートスタッフ数 61 人

(人間健康科学 46 人、スポーツ実習 5 人、国際高等教育院 5 人、救急部 5 人)

カメラ係 4 人

(人間健康科学 学部生)

3. 4 月 5 日(木)(3 回目)

1)学生数とその背景

このガイダンス対象の予定入学者数は 1,002 人であり、800 人からアンケートの回収ができた(回収割合 79.8%)。688 人(85.8%)が男性であった。

2)教員数

インストラクター数 4 人

(人間健康科学 1 人、環境安全保健機構 1 人、理学部 1 人、研修センター1 人)

サポートスタッフ数 58 人

(人間健康科学 48 人、スポーツ実習 3 人、国際高等教育院 2 人、救急部 5 人)

カメラ係 4 人

(人間健康科学 学部生)

4. 学生アンケート結果

3 日間で合計 2,391 人からアンケート回答を得ることができた(80.7%)。

1)本学入学前の教育課程における、心肺蘇生法および AED に関する教育歴

アンケートを回答した学生のうち実技を伴う授業を受けていたものは、67%であった。

問 1. これまでに、心肺蘇生法や AED の使い方の講習会を受けたことがありますか？

	n=2,391	%
トレーニング人形を用い、 実技をともなう実習形式の授業	1599	66.9
講義のみの授業	379	15.9
今回初めて心肺蘇生法の授業を受けた	364	15.2
無回答	49	2.0

問 2. 今まで講習会を受けた方は、どこでその講習会を受けましたか？（重複回答）

	n=1,978	%
小学校	272	13.8
中学校	1017	51.8
高等学校	1346	68.6
運転免許取得時	48	2.4
その他	105	5.4

2) 今回の取り組みについて

問 3. 入学オリエンテーション時に、心肺蘇生法のプログラムを行うことをどう思いますか

約 90%の学生が、ガイダンスで救命講習会を実施することに有意義だと感じていた。

	n=2,391	%
有意義だと思う	1652	69.1
どちらかという有意義だと思う	492	20.6
どちらとも言えない	135	5.6
どちらかという意味がないと思う	37	1.5
意味がないと思う	21	0.9
無回答	54	2.3

問 4. 心肺蘇生や AED の使い方を定期的に学びたいと思いますか？

約 70%の学生が、定期的に学びたいと思っている。

	n=2,391	%
とても思う	666	27.9
どちらかという学びたいと思う	912	38.1
どちらとも言えない	512	21.4
どちらかという学びたいとは思わない	170	7.1
全く思わない	84	3.5
無回答	47	2.0

問 5. サポートスタッフの教員や周りの新入生と講習会中 1 回でも話をしましたか？

約 82%の学生が、周りの教員や新入生と話をしていたと回答した。

問 6. サークルなど活動中に仲間の一人が急に倒れた場合、あなたがすべきことは何ですか？

（寄せられた 2177 名からの一部抜粋）回答割合：91.0%

- ・恥ずかしがらずに声をかけ、119 番と AED を呼ぶ
- ・何もしないよりは勇気を持って行動する
- ・勇気を出して声をかける！
- ・とにかく周囲に声をかけてできることをしていく
- ・まず声をかけてみること「誰かがやってくれるだろう」という意識を無くす

問 7. 周りの人が倒れた時のために、日ごろからやっておくべきことは何ですか？

(寄せられた 2051 名からの一部抜粋)回答割合:85.8%

- ・AED の場所を確認しておく
- ・小さな異変に気づけるように気配りする
- ・見て見ぬふりをしない
- ・できるだけ講習会に参加する
- ・救命活動に親しんでおく
- ・人と交流する
- ・シミュレーションをしておく
- ・月に一回救命について考える
- ・いざという時に声をかけられるように、日頃から困っている人に声をかけるようにする
- ・身の周りの困っている人に積極的に声をかける
- ・周りの人の体調を気にかける。そのために日頃からコミュニケーションをとる。
- ・当事者意識を持つこと

問 8. 救命講習会を受けた感想(寄せられた 1923 名からの一部抜粋)回答割合:80.4%

- ・救命講習は大切だと思った
- ・京大敷地内の AED の位置を確認しておかないと、人を救えないと思った
- ・AED の使い方や重要性について楽しく学ぶことができてよかった
- ・自分の行動で救われる人がいるかもしれないということを実感しました
- ・チームワーク大事
- ・命の大切さ
- ・隣の人と一緒に講習をうけるのは楽しかったです
- ・隣の人と仲よくなれた
- ・高校で習ったことを忘れかけていたので再確認できて自信がもてた
- ・心肺蘇生法を定期的に学びたいと思いました
- ・身近に感じた
- ・今までは教科書で救命措置のやり方を読んだだけで、実際に救命が必要な場面に出くわしても何もできなかったと思うけれど、今回実際やったことでもしそうなったら声をかけようと思えるようになった
- ・知れてよかった
- ・サボっている人がいるのが非常に残念
- ・簡単だったからすぐに動けるようになりたい
- ・人の命は思わぬ所で失われることがあり、その命を救えるのは勇気ある人しかいないということに頭を打たれたような衝撃を受けました
- ・やらなくて後悔はするがやって後悔はしないことなので、やろうと思います

5. 体調不良を起こした学生

3回の救命講習会中9人が体調不良を起こし(4/3:1人、4/4:5人、4/5:3人)、各部屋の救急部の医師らによって救護室に運ばれ、経過観察された。気分不良を起こしたタイミングは、学生により異なっていた。いずれも自律神経失調症の症状(冷汗、体の一部が震える、立ち眩み、気分不良、顔面蒼白など)を起こし、車いすや教員に支えられながら救護室に搬送された。いずれも、救護室(4共14)の椅子で横になりしばらく休んだ後、自力歩行でガイダンスの部屋に戻ったり、帰宅することができていた。

VI. まとめ

今年度で全新生入生に対する、心肺蘇生やAEDの使い方を指導する講習会の実施が4回目になった。この4月で本学の全ての学部生が胸骨圧迫やAEDの使い方を学んだことになる。アンケートの自由記載を見ると、日ごろからやっておくべきことの中に「見て見ぬふりをしない。」「身の周りの困っている人に積極的に声をかける。」「周りの人の体調を気にかける。そのために日頃からコミュニケーションをとる。」など周りの人を気遣う重要性を感じている学生がいた。今回の講習会をきっかけに、自分や他者の命の大切さを忘れずに学生生活を過ごしてくれることを願う。

アンケートで66.9%の学生が、今まで実技を伴う心肺蘇生の講習を受けていたが、この数字は講習会を開始した平成27年度から比較するとわずかずつつであるが年々増えてきている(平成27年度57.5%、平成28年度60.4%、平成29年度65.4%)。今年度は、自由記述を記載していた学生が昨年度よりも多く、関心を持った学生が多かったのではないかと思った。全てのものが確実に学べる場として、心肺蘇生教育を義務教育課程に導入する動きが世界中で行われている。将来、日本でも大学に入学するまでの教育課程で、心肺蘇生教育が実施され、いずれ入学する学生全ての学生が、実技を伴う心肺蘇生の講習の経験を有して欲しいと考えている。

平成29年度より、本講習会を受講した学生を対象に、救急現場に遭遇した際の救助活動実施の有無に関するfollow-up調査を開始した。人が倒れたところに遭遇した頻度は、1年あたり4/100人、心停止に遭遇した頻度は1年あたり、2/100人であった。また心停止に遭遇した学生のうち約半数は何らかの救命行動(119番通報、胸骨圧迫の実施、AEDの使用など)を行っていた。⁵ 今回の講習会では、この結果をもとに人が倒れた場面、心停止患者に遭遇することが稀ではないことを学生に伝え、当事者意識を持ってこの講習に取り組んでもらうようにした。このfollow-up調査は今後も継続し、講習会の内容やあり方を見直し、より効果的で効率のよい教育方法を見出したいと考えている。そのためにも、救命救急講習Project Teamメンバーを中心に、国際高等教育院、環境安全保健機構、医学研究科などの関連部局と密に連携を取り、次年度も円滑な運営が行えるようにする。また、他大学でもこの取り組みが実施されるように、情報発信していくことが今後の課題である。

VII. 救命救急講習 ProjectTEAM メンバー

今回の救命講習会は、下記の ProjectTEAM メンバーによって企画・運営・実施された。

チームリーダー	石見 拓（環境安全保健機構・健康管理部門・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	馬場正昭（理学研究科・化学専攻・教授）
チームメンバー	川村 孝（環境安全保健機構・健康管理部門・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学部附属病院 初期診療・救急科・救急部・教授）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	佐藤隆平（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	小林大介（環境安全保健機構・健康管理部門・助教）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）

VIII. 謝辞

今回の講習会を実施するにあたり、ご協力を下されました吉田南構内共通事務部、情報環境機構（情報部）情報環境支援センター、人間健康科学系専攻事務の皆様には厚く御礼申し上げます。

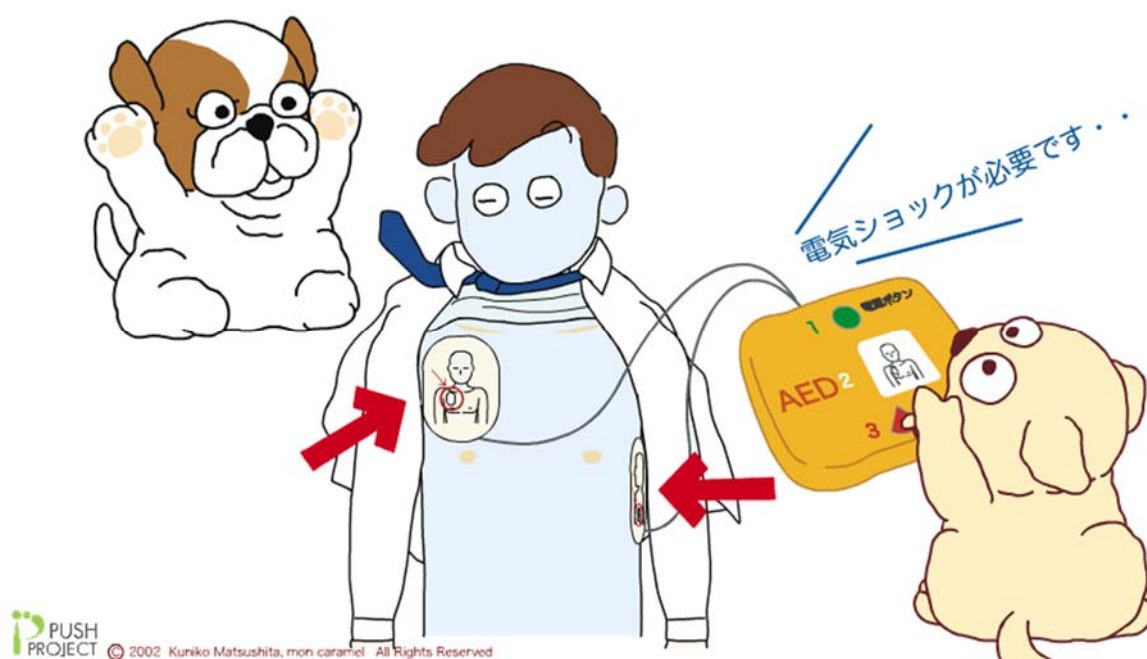
Ⅸ. 参考文献

1. JRC 蘇生ガイドライン 2015、一般社団法人 日本蘇生協議会(監修)、医学書院、2016 年
2. Tanigawa K, Iwami T, Nishiyama C, et al. Are trained individuals more likely to perform bystander CPR? An observational study. Resuscitation. 2011;82:523-8.
3. H28 年度新入生 3000 名への救命講習会実施報告書(http://www.med.kyoto-u.ac.jp/wp-content/uploads/2015/08/hs_h27kyuumeikousyuukai3000.pdf) (2016/5/22 アクセス)
4. Nishiyama C, Iwami T, Kitamura T, et al. Long-term retention of cardiopulmonary resuscitation skills after shortened chest compression-only cardiopulmonary resuscitation training and conventional cardiopulmonary resuscitation training: a randomized controlled trial. Acad Emerg Med. 2014; 21: 47–54.
5. Nishiyama C, Sato R, Sano M, Baba M, Kuroki H, Kawamura T, Kiguchi T, Kobayashi D, Shimamoto T, Koike K, Tanaka S, Naito C, Iwami T. Actual Behavior After A Training Of Chest Compression-only CPR And AED Use For 3000 New Students. Presented at the 2017 American Heart Association Scientific Session, Resuscitation Science Symposium. Anaheim, California, Nov 13, 2017.

H30 年度

新入生 3000 名への救命講習会

サポートスタッフ手順書



2018/03/27

Ver. 2

救命救急講習 Project TEAM 作成

目 次

I. 救命講習会の理念	1
II. 救命講習会の目的	1
III. 救命講習会実施の概要	1
IV. 場所・日程・学生部屋割り	1-3
V. あっぱくんについて	3
VI. サポートスタッフの役割	4-5
VII. 当日の流れ	5
VIII. 救命講習会時間割り	6
IX. サポートスタッフ担当表	7-9
X. 教室配置図	10-21
4/3(火):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	10-13
4/4(水):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	14-17
4/5(木):4 共 11、4 共 21、4 共 30、4 共 31	18-21
XI. 体調不良、怪我など	22
XII. 地震・火災等避難経路方法	23

I. 救命講習会の理念

新入生に心身の健康と命の大切さを感じ取ってもらうことを目的とした講習です。新入生全員が、CPR/AED(心肺蘇生/自動体外式除細動器)を体験しながら、救命救急について学びます。実際に心肺停止に遭遇した場合にも躊躇なく救命行動ができるように、心肺蘇生法の中でも一番大事なポイントを修得します。新入生は、2人ひと組のペアをつくって、協力しあいながら、心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」で蘇生法を体験します。

この講習会では、心肺蘇生のスキルを教えることだけでなく、自分や周りの人の命の大切さを考えるきっかけを与えることです。また、1回生同士のペアや、サポートスタッフの教員と対話しながら心肺蘇生法を学ぶことによって、社会や仲間の中での自己信頼性と自己肯定性、自己有用性を高めていけるよう配慮したいと思います。

II. 救命講習会の目的

1. 心肺蘇生法を実施しAEDを使用することで、救えるいのちがあることを知り、いのちの尊さを考えることができる。
2. 心停止の現場に居合わせた際に、直ちに119番通報を行い、迅速に心肺蘇生(胸骨圧迫)を実施し、AEDを使用するという救命処置の流れを理解することができる。
3. 同級生やサポートスタッフとコミュニケーションをとる。

III. 救命講習会実施の概要

4/3(火)-4/5(木)14:00-16:30に新入学生に対して行われる全学機構ガイダンス(2時間30分)のうち40分間(15:20-16:00)で、救命講習会を行います。学生数が多いので、4教室で同時に講習を進め、1回の講習で約1000名、全3回行うことで新入生約3000人に指導を行います。

IV. 場所・日程・学生部屋割り

1. 場所: 吉田南4号館(地図番号92)

4 共 11(1F)

4 共 21(2F)

4 共 30(3F)

4 共 31(3F)

2. 日程: 事前説明時間を含む

2018年4月3日(火)14:30-16:00

2018年4月4日(水)14:30-16:00

2018年4月5日(木)14:30-16:00



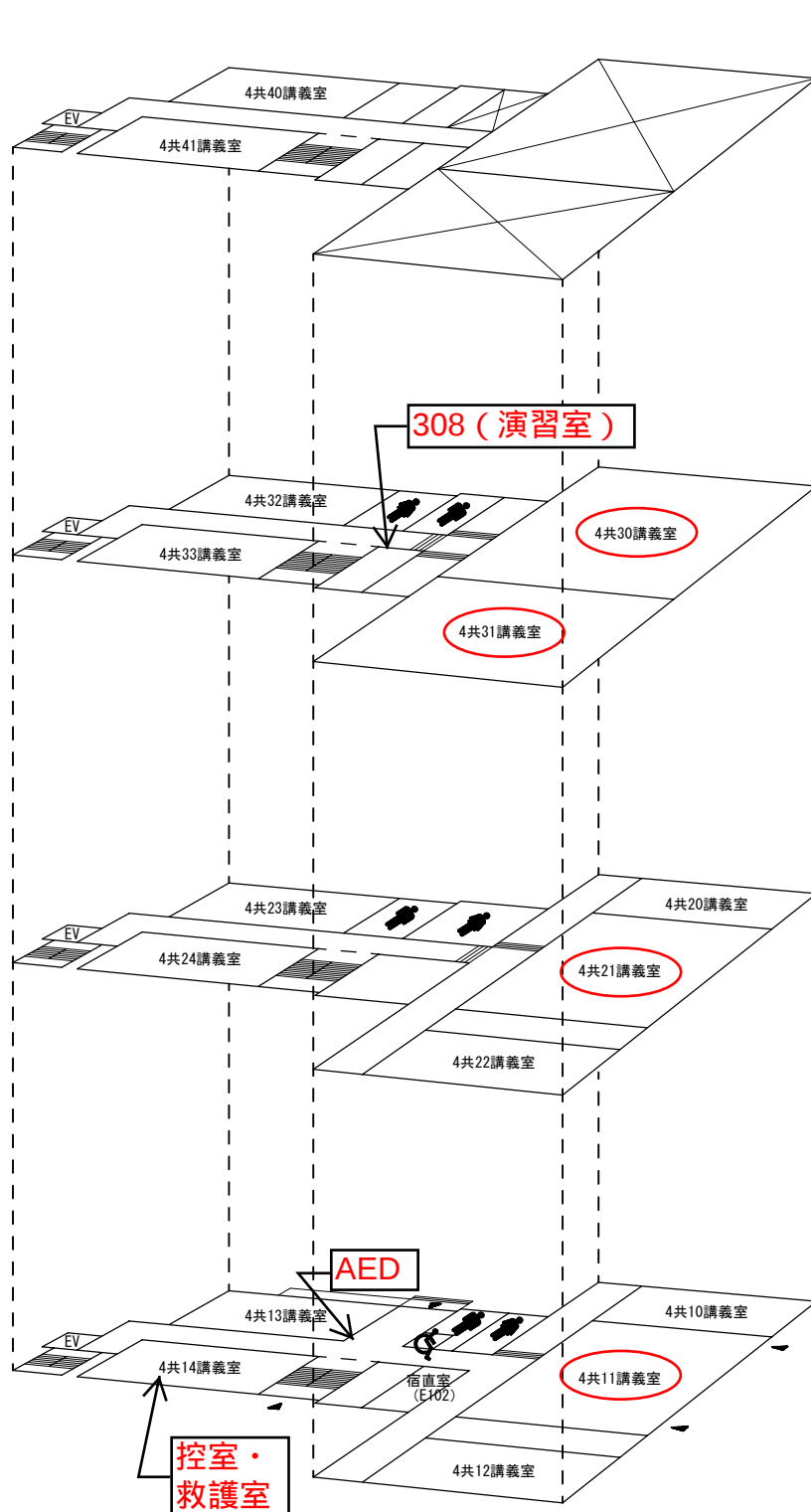
吉田南 4 号館

4 階

3 階

2 階

1 階



3. 学生部屋割り

①4月3日(火)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	209	175	350	192
学部	医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)

②4月4日(水)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	225	253	343	198
学部	文学部	経済学部 (編入除く)	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部†

③4月5日(木)

教室	4 共 11(1F)	4 共 21(2F)	4 共 30(3F)	4 共 31(3F)
学生数	241	242	325	177
学部	工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)

* 学生数は H29 年度の数です。多少変動はあると思いますが、H30 年度もほぼ同じ数です。

†編入生

V. あっぱくんについて

今回は心肺蘇生のトレーニング器「あっぱくん®」を 2人で1個 (奇数の座席については、1人1個の箇所もあり)を使います(右写真)。

あっぱくん®は、講習会が始まる前にあらかじめ机の中にセットされています(下記写真)。インストラクターは、講習会が始まったら机の上にあっぱくん®を出すように指示をします。

こんな感じで事前に準備しておきます⇒



VI. サポートスタッフの役割

1. 概要

今回の講習会は、スライドに流れる DVD 映像を見た後、一旦 DVD を止めてみんなで実技を行います。サポートスタッフ 1 人で約 20 名の新入生を担当し、(担当部屋は、page7-9 参照) 下記の内容を行っていただきたいと思います。

2. 役割(お願いしたいこと)

- ①DVD の流れについて実技ができているかどうかを見守り、励ましの言葉をかけて下さい
(よくある例:時々DVD をちゃんと見ておらず、何をしたらいいかわからなくなっている)
- ②DVD と異なることをしていたら、声を掛けてサポートして下さい
(よくある例:AED のパットを貼る位置が、左右逆。あっぱくん®の置く向きが違う。)
- ③胸骨圧迫の練習の際、手の組み方、ひじが曲がっていないか、ハートの真ん中が押せているか確認して「いいね!」「その調子」「がんばれ!」など声掛けをしてください
- ④あっぱくん®から音が鳴らなくてももしっかり押せていると思われたら、「大丈夫。押せている」と言ってあげて下さい。机の高さと身長が合わず力が入りにくい学生がいると思います(特に女子)。できる範囲で胸骨圧迫の練習をしてもらって下さい。
- ⑤DVD についていけない新生が入った場合、全体の流れを調整するようにインストラクターに伝えて下さい。学生数が多いので、インストラクターは細部まで目が行き届かない場合があります。
- ⑥DVD の映像を見る時以外は、担当する新生に積極的に声を掛けて下さい
(例:うまく胸骨圧迫ができたら褒めて下さい。)
- ⑦講習会中盤で、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面があります。ここがサポートスタッフの一番必要なところです。左右でペアがいなくて一人になっている学生がい
ないか?(奇数の座席数は前後で)うまく 2 人 1 組になるように誘導して下さい。2 人組に
なれない場合は、その学生とペアになって下さい。一人ぼっちになると寂しいです。
- ⑧4/5(木)の講習を担当して下さったサポートスタッフは、担当した学生のあっぱくん®を集め、教室後ろあるいは前にあるあっぱくん®の回収 BOX へ戻して下さい。回収 BOX へ入れていただいた後は、流れ解散で結構です。

3. あっぱくん運搬責任者の役割(スタッフ番号がついてない先生方)

- ①当日、担当教室の教員の出欠確認を説明開始時間までに行い、西山にメンバーがそろっているか否かお伝えください。
- ②4 共 11, 4 共 21, 4 共 31 の先頭列には机の下にあっぱくんを入れられないため、教壇の近くに積まれているあっぱくンを学生に配布し、講習後は回収して元の位置に置いておいて下さい。
- ③何か困っていることがないか見渡し、学生のサポートをお願いします。
- ④インストラクターのサポートをお願いします。
- ⑤DVD が見やすいように部屋の電気の調整をお願いします。(注・冒頭のメッセージビデオの時はすべての電気を消して下さい)
- ⑥4/5(木)講習会后、サポートスタッフが持ってきたあっぱくん®を講義室後ろまたは前にある段ボールに 20 個ずつ詰めて下さい。
4 共 21、4 共 30 のあっぱくん®⇒3F308(演習室)へ運搬。
4 共 11 と 4 共 31 のあっぱくん®⇒1F の入り口付近まで運搬。
- ⑦4/5(木)講習会后のあっぱくんの片づけは、各部屋のカメラ係の学生がお手伝いします。

4. サポートスタッフ担当表で①の先生方

4/5(木)のみ講習会后、各部屋のカメラ係の学生がカメラを先生方に預けに来ます。サポートスタッフ控室(1F4 共 14)に待機されている黒木先生に、預かって頂いたカメラを返却して下さい。

VII. 各日、当日の流れ

時間	項目	場所・備考
14:30	サポートスタッフ 控え室集合	4 共 14(1F)
14:30-15:00	説明	全体説明後、4 共 13(1F)と 4 共 14(1F)に分かれる
15:00-15:20	各部屋に移動	4 共 11(1F)、4 共 21(2F)、4 共 30(3F)、4 共 31(3F)
15:20-16:00	救命講習会	4/3 と 4/4 は終了後、適宜解散
16:00-16:10	4/5 のみ あっぱくん®回収	4/5 のみ講習会終了後、担当学生のあっぱくん®を集め、回収 BOX へ収納。収納後、流れ解散。
	4/5 のみ あっぱくん後片付け	あっぱくん運搬責任者と、カメラ係の大学院生は後片付け

平成30年度 新入生への救命救急講習会 (2018.03.12現時点)

場所: 吉田南4号館 (4共11、4共21、4共30、4共31)

日時: 2018年4月3日(火)～5日(木)15:20-16:00

目標

1. 命の大切さ、尊さを考える。
2. 第一救助者の重要性を理解する。
3. 胸骨圧迫とAEDの意義とその方法を理解する。



特に気に掛けていただきたい項目

	時刻			項目		お願い
導入	15:20	～	15:24			・あいさつ ・写真・ビデオ撮影の説明
	15:24	～	15:32	メッセージビデオ	😊	・動機づけのためのメッセージビデオを見ます。 ・メッセージビデオ後、あっぱくんを机の上に出し蓋を開けてもらいます。蓋が開かない学生がいたらサポートお願いします。
展開	15:32	～	15:35	第一話		手首で脈の確認をしますが、見つけられない学生がいたらサポートお願いします。
	15:35	～	15:35			集中してない学生がいたら、続きのDVDを見るように促して下さい。
	15:35	～	15:37	第二話	😊	声を出すことを恥しがるかもしれませんが、先生方も一緒に声を出して下さい。
	15:37	～	15:39			あっぱくんの胸(ハートの辺り)や、お腹辺りを見ているか確認してください。
	15:39	～	15:40		😊	左右どちらが上でもいいので、手が組めているか確認してください。
	15:40	～	15:43		😊	胸骨圧迫を1人30秒体験します。 30秒経ったら、合図を出しますのであっぱくんを隣の人に渡します。
	15:43	～	15:44			胸骨圧迫の交代の方法をDVDで見ます。
	15:44	～	15:50		😊	2人1組になれているか確認してください。 30秒経ったら合図をしますので、学生同士声を掛けあって胸骨圧迫の交代をします。注)あっぱくんを移動させず、人が移動するようにして下さい。
	15:50	～	15:53	第三話	😊	自分の体でAEDパットを貼る位置を確認しますが、逆になってないか確認してください。
	15:53	～	15:55			AEDの音声を聞いてみます。 模擬AEDの電気ショックボタンを押します。
	15:55	～	15:56			
まとめ	15:56	～	16:00	まとめ		6

H30年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案(2018.3.27現在)

日程		事前準備係 2018/4/2	2018/4/3(火)					
講習会時間		9:00-11:00	15:20-16:00					
教室名(吉田南4号館)		馬場正昭 西山知佳 佐藤隆平 学生6名	4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計	
部局			医学部(医) 農学部 (資源生物)	医学部(人) 農学部 (地域環境) (食品生物)	理学部 農学部 (食料・環境)	薬学部 農学部 (応用生命) (森林科学)		
インスト			佐藤隆平	西山知佳	石見 拓	馬場正昭		
学生人数 *			209	175	350	192	926	
あっぱくん個数			104	88	175	96	463	
あっぱくん所属			研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学		
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者		清 水 彬 礼	松 林 潤	森 瀬 譲 二	伊 藤 明 良		
			①上 野 智 弘	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか		
			②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②桂 敏 樹	②加 藤 寿 宏		
	救護(救急部)		③柚 木 知 之	③趙 晃 済	③小 池 薫	③奥 野 善 教		
			④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳		
			⑤二 宮 早 苗	⑤高 桑 徹 也	⑤澤 本 伸 克	⑤中 村 光 宏		
			⑥伊 吹 謙太郎	⑥青 山 朋 樹	⑥若 村 智 子	⑥野 口 将 秀		
			⑦西 垣 昌 和	⑦谷 口 匡 史	⑦奥 野 恭 史	⑦山 田 純 栄		
			⑧清 川 加奈子	⑧鳥 井 美 江	⑧天 谷 真奈美	⑧恒 藤 暁		
			⑨新 福 洋 子	⑨岡 昌 吾	⑨谷 向 仁	⑨梁 楠		
			⑩近 藤 祥 子	⑩道 端 明 子	⑩鎌 田 真由美	⑩加 藤 立 久		
			⑪前 田 祐 子	⑪港 野 恵 美	⑪谷一 靖江	⑪野 村 晴 美		
			⑫那須田 周 平	⑫吉 崎 武 尚	⑫松尾 英将	カメラ 林 英利		
			カメラ 長田典子	カメラ 小林明理	⑬白 井 由 紀			
					⑭古 田 真里枝			
					⑮ANAGNOSTOU Despoina			
					⑯PATAKY Todd			
					⑰三 谷 章			
					⑱木 下 彩 栄			
					⑲椎 名 毅			
				カメラ 山添莉歩				
		全体統括見守り隊		黒 木 裕 士				
		控室待機担当		西 村 亜希子				
* 学生人数は、H29度数								

H30年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案(2018.3.27現在)

日程		2018/4/4(水)				
講習会時間		15:20-16:00				
教室名(吉田南4号館)		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局		文学部	経済学部	法学部	総合人間学部 教育学部 経済学部(編入)	
インスト		佐藤隆平	西山知佳	石見 拓	馬場正昭	
学生人数 *		225	253	343	198	1,019
あっぱくん個数		113	127	172	99	511
あっぱくん所属		研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	清水 彬 礼	松 林 潤	森 瀬 譲 二	伊 藤 明 良	
		①上 野 智 弘	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか	
		②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②山田 重 人	②加 藤 寿 宏	
	救護(救急部)	③柚 木 知 之	③下 戸 学	③小池薫/宮本将太	③高 谷 悠 大	
		④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳	
		⑤二 宮 早 苗	⑤江 川 達 郎	⑤田 村 恵 子	⑤中 村 光 宏	
		⑥伊 吹 謙太郎	⑥青 山 朋 樹	⑥任 和 子	⑥秦 野 恭 子	
		⑦西 垣 昌 和	⑦谷 口 匡 史	⑦奥 野 恭 史	⑦上久保 靖彦	
		⑧清 川 加奈子	⑧鳥 井 美 江	⑧天 谷 真奈美	⑧三 谷 章	
		⑨新 福 洋 子	⑨岡 昌 吾	⑨谷向 仁	⑨ 梁 楠	
		⑩近 藤 祥 子	⑩藤 井 康 友	⑩鎌 田 真由美	⑩野 口 将 秀	
		⑪稲 富 宏 之	⑪十 一 元 三	⑪谷一 靖江	⑪金 丸 敏 幸	
		⑫小 川 真 寛	⑫椎 名 毅	⑫松尾 英将	⑫桑 原 知 子	
		⑬高 山 優 子	⑬前 田 祐 子	⑬古 田 真里枝	⑬杉 山 雅 人	
		⑭伊 藤 千 草	⑭港 野 恵 美	⑭ANAGNOSTOU Despoina	カメラ 山添莉歩	
	カメラ 林 英利	⑮片 山 泰 佑	⑮PATAKY Todd			
		カメラ 長田典子	⑯澤 本 伸 克			
			⑰服 部 高 宏			
			カメラ 小林明理			
	全体統括見守り隊	黒 木 裕 士				
	控室待機担当	西 村 亜希子				

* 学生人数は、H29度数

H30年度 3000人講習会サポートスタッフ配置案(2018.3.27現在)

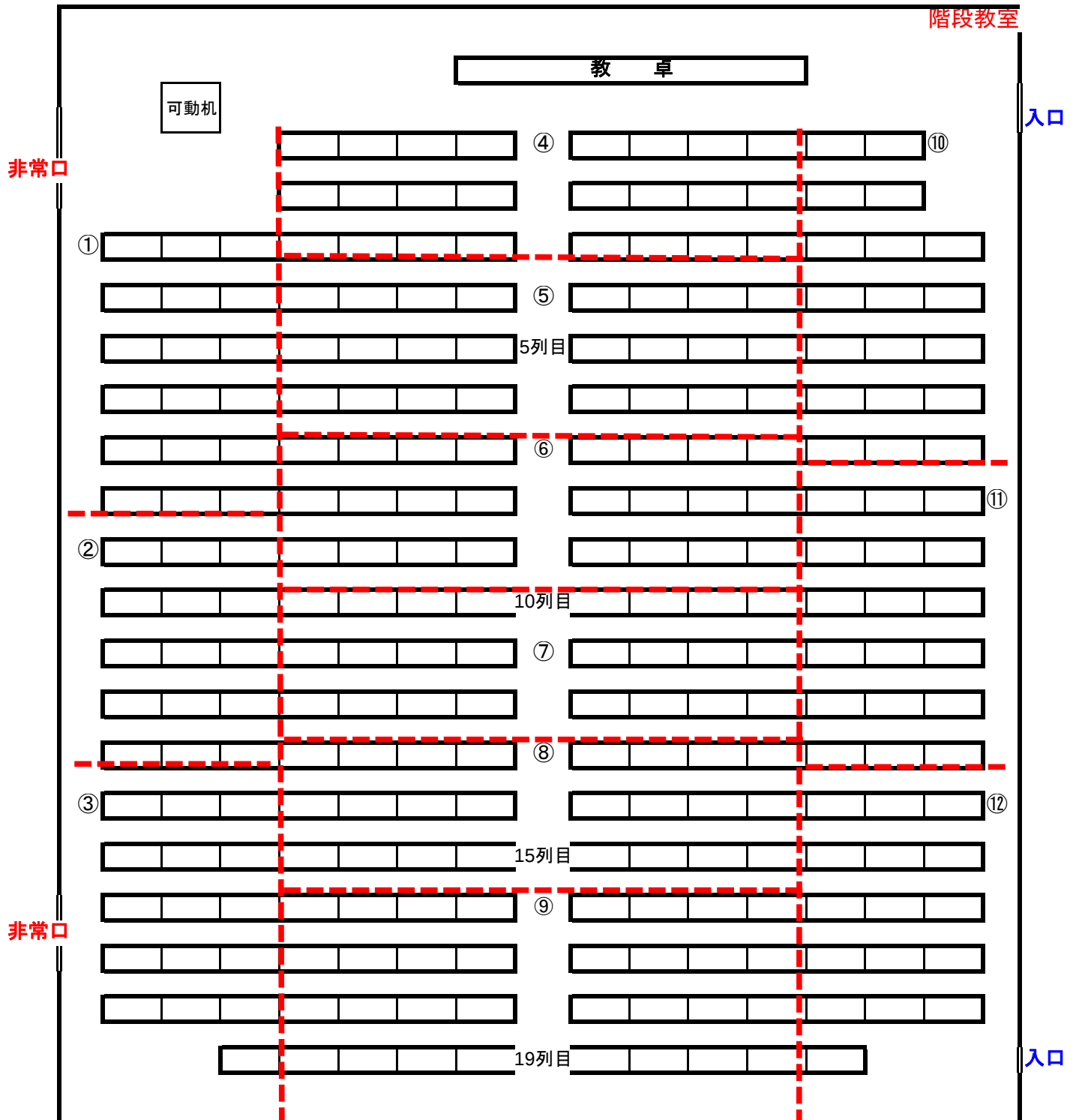
日程		2018/4/5 (木)				
講習会時間		15:20-16:00				
教室名(吉田南4号館)		4共11(1F)	4共21(2F)	4共30(3F)	4共31(3F)	合計
部局		工学部 (物理工学)	工学部 (工業化学)	工学部 (地球工学) (電気電子)	工学部 (建築) (情報)	
インスト		佐藤隆平	内藤知佐子	島本大也	馬場正昭	
学生人数 *		241	242	325	177	985
あっぱくん個数		121	121	163	89	494
あっぱくん所属		研修センター	高等教育院	高等教育院	健康科学	
サポート スタッフ メンバー	あっぱくん 運搬責任者	清 水 彬 礼	松 林 潤	森 瀬 譲 二	伊 藤 明 良	
		①上 野 智 弘	①池 添 冬 芽	①大 畑 光 司	①岡 橋 さやか	
		②大 塚 研 一	②笹 山 哲	②山田 重 人	②加 藤 寿 宏	
	救護(救急部)	③角 田 洋 平	③堤 貴 彦	③大鶴繁/安尾俊祐	③陣 上 直 人	
		④山之内 智子	④柳 吉 桂 子	④石 津 浩 一	④大 倉 美 佳	
		⑤二 宮 早 苗	⑤白 井 由 紀	⑤木 下 彩 栄	⑤中 村 光 宏	
		⑥伊 吹 謙太郎	⑥青 山 朋 樹	⑥若 村 智 子	⑥田 島 敬 史	
		⑦西 垣 昌 和	⑦谷 口 匡 史	⑦任 和 子	⑦山 田 純 栄	
		⑧清 川 加奈子	⑧前 田 祐 子	⑧上久保 靖彦	⑧梁 楠	
		⑨新 福 洋 子	⑨恒 藤 暁	⑨谷向 仁	⑨桂 敏 樹	
		⑩近 藤 祥 子	⑩藤 井 康 友	⑩鎌 田 真由美	⑩高 山 優 子	
		⑪稲 富 宏 之	⑪十 一 元 三	⑪谷一 靖江	⑪江 川 達 郎	
		⑫須賀原 教 子	⑫宇都宮 明 美	⑫松尾 英将	⑫野 口 将 秀	
	カメラ 原田優太郎	⑬井 沢 知 子	⑬田 村 恵 子	カメラ 太田 敦		
		カメラ 山添莉歩	⑭ANAGNOSTOU Despoina			
			⑮PATAKY Todd			
			⑯高 桑 徹 也			
			⑰市 橋 則 明			
			カメラ 長田典子			
	全体統括見守り隊	黒 木 裕 士				
	控室待機担当	西 村 亜希子				

* 学生人数は、H29度数

4/3(火)4共11

定員 254
予定人数 209

階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/3(火)4共21

定員 258
予定人数 175

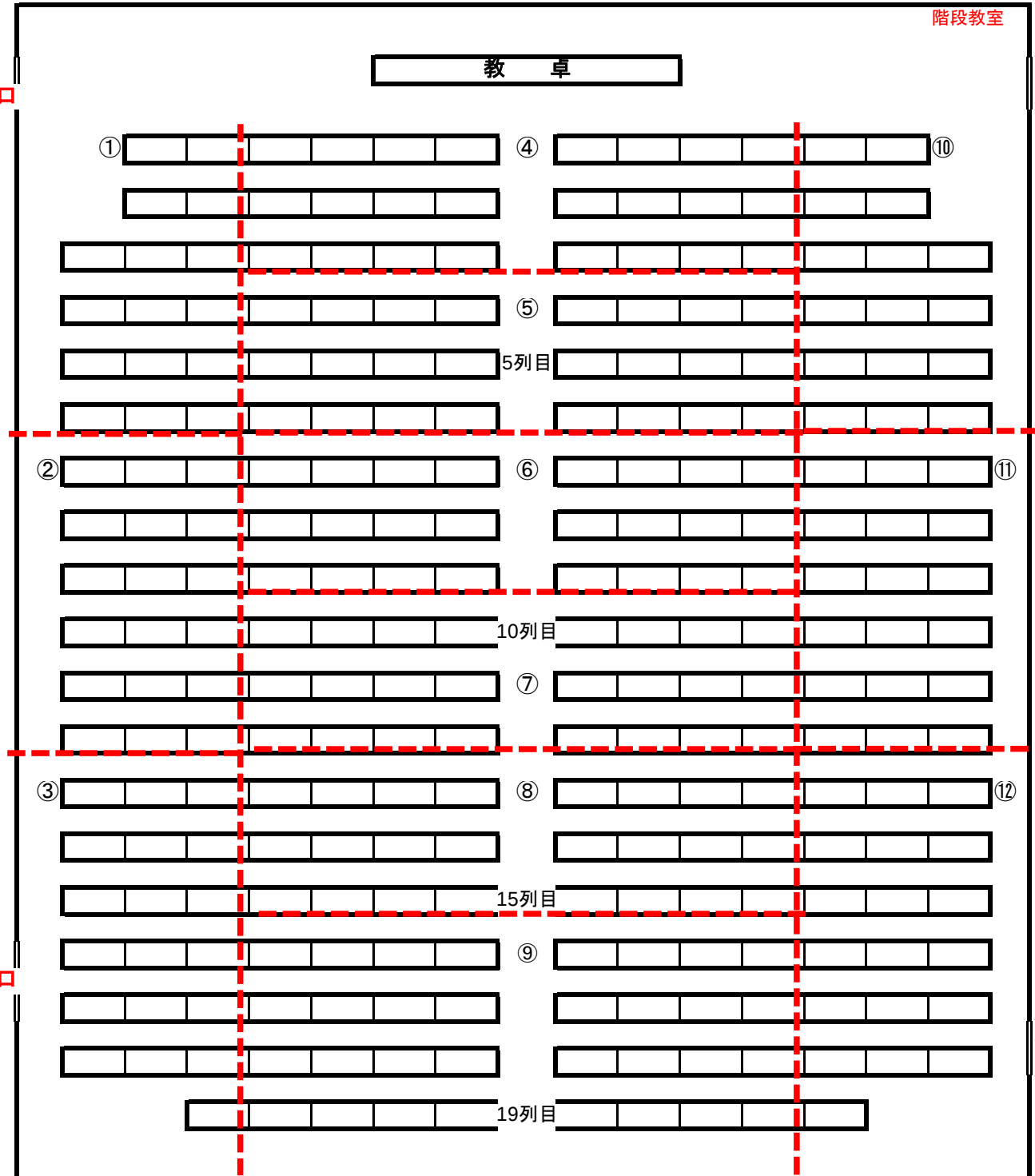
階段教室

非常口

入口

非常口

入口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

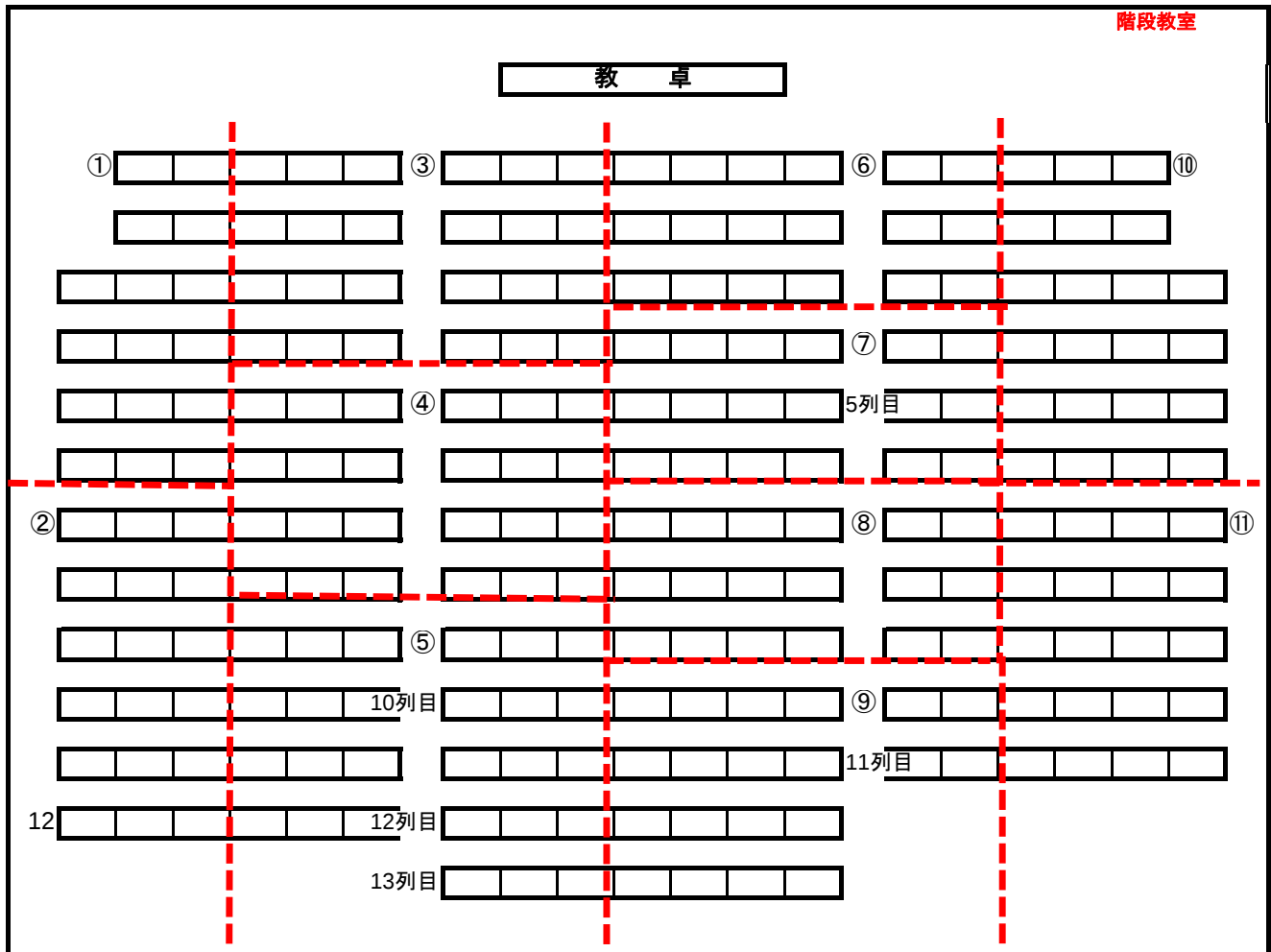
4/3(火)4共31

定員 225
予定人数 192

入口

階段教室

非常口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。非常口
数字は、机の列番号を意味しています。

4/4(水)4共11

予定人数 225

入口

可動機

入口

非常口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

4/4(水)4共21

定員 258
予定人数 253

階段教室

卓 教

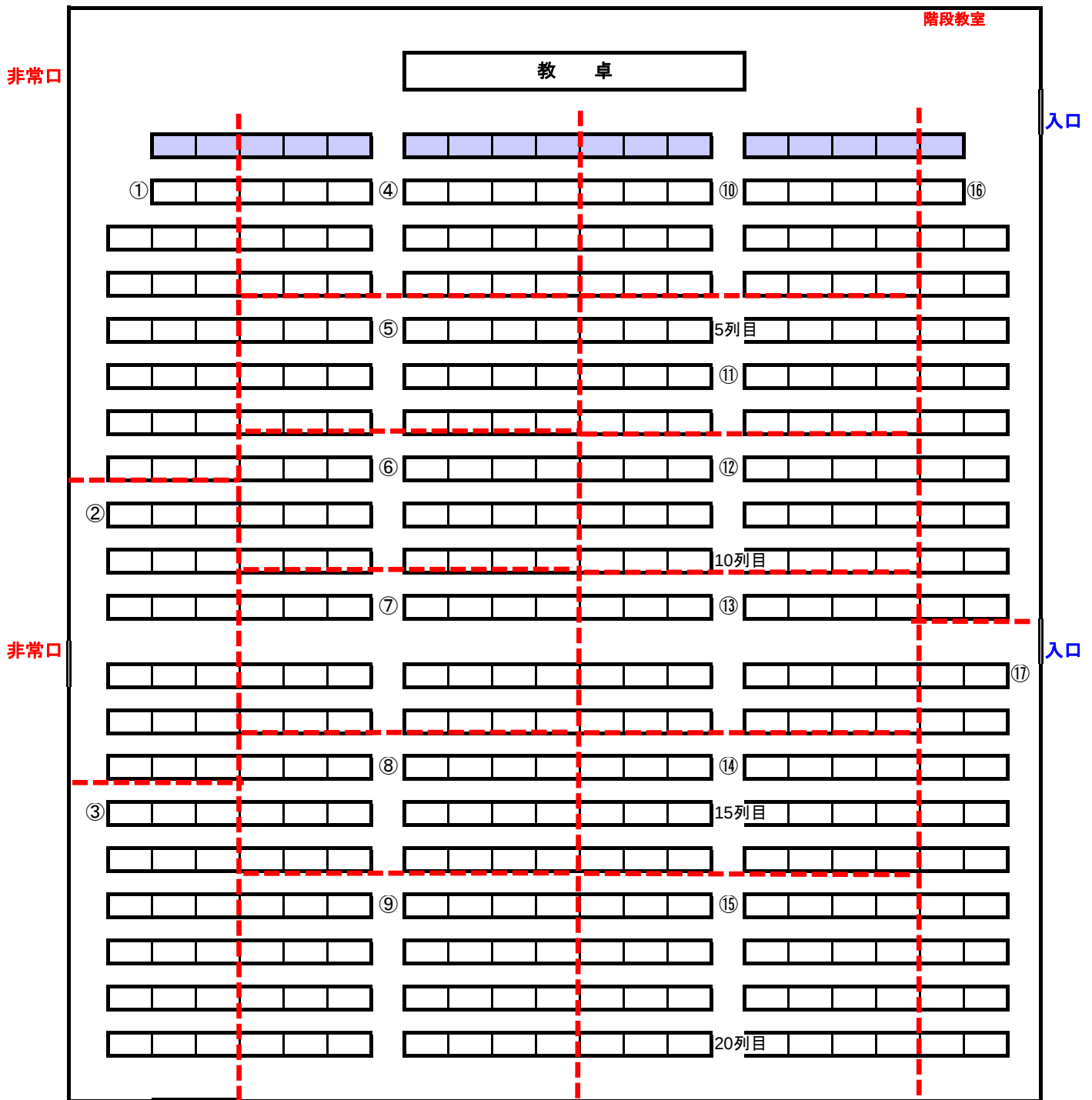
非常口

入口

○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

4/4(水)4共30

定員 376
予定人数 343



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。

■: 可動機は使用しない。

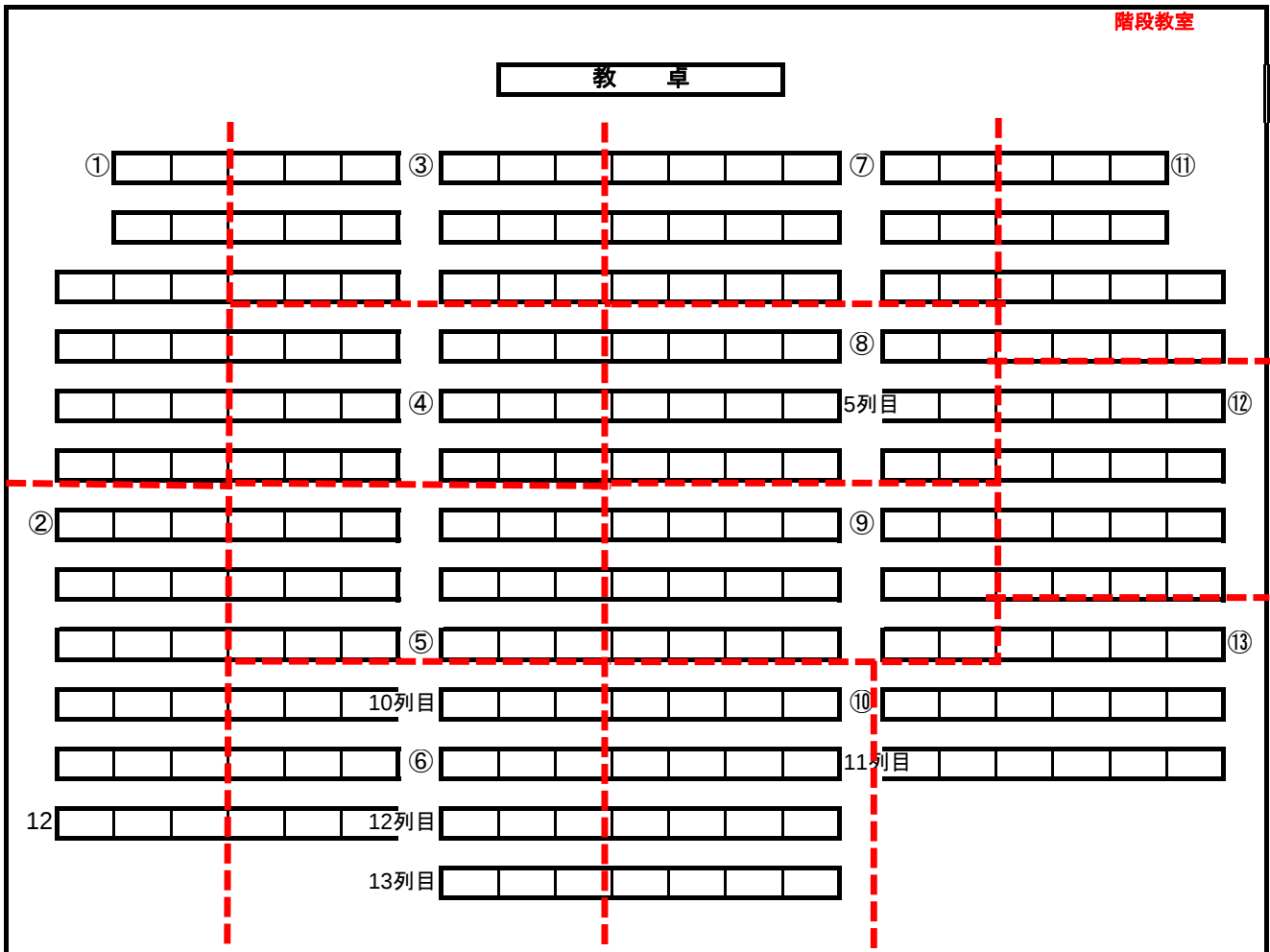
4/4(水)4共31

定員 225
予定人数 198

入口

階段教室

非常口

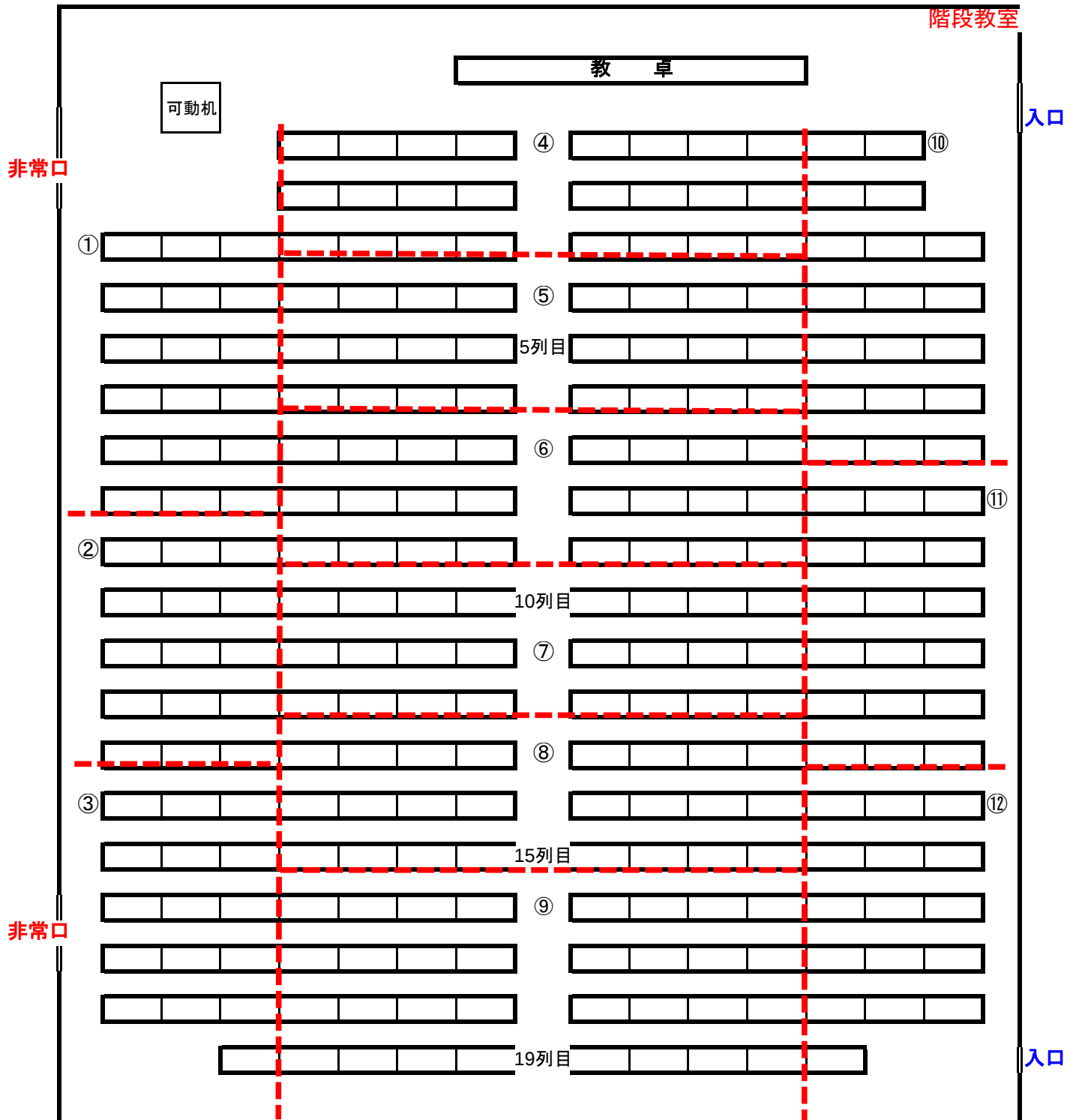


○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。非常口
数字は、机の列番号を意味しています。

4/5(木)4共11

定員 254
予定人数 241

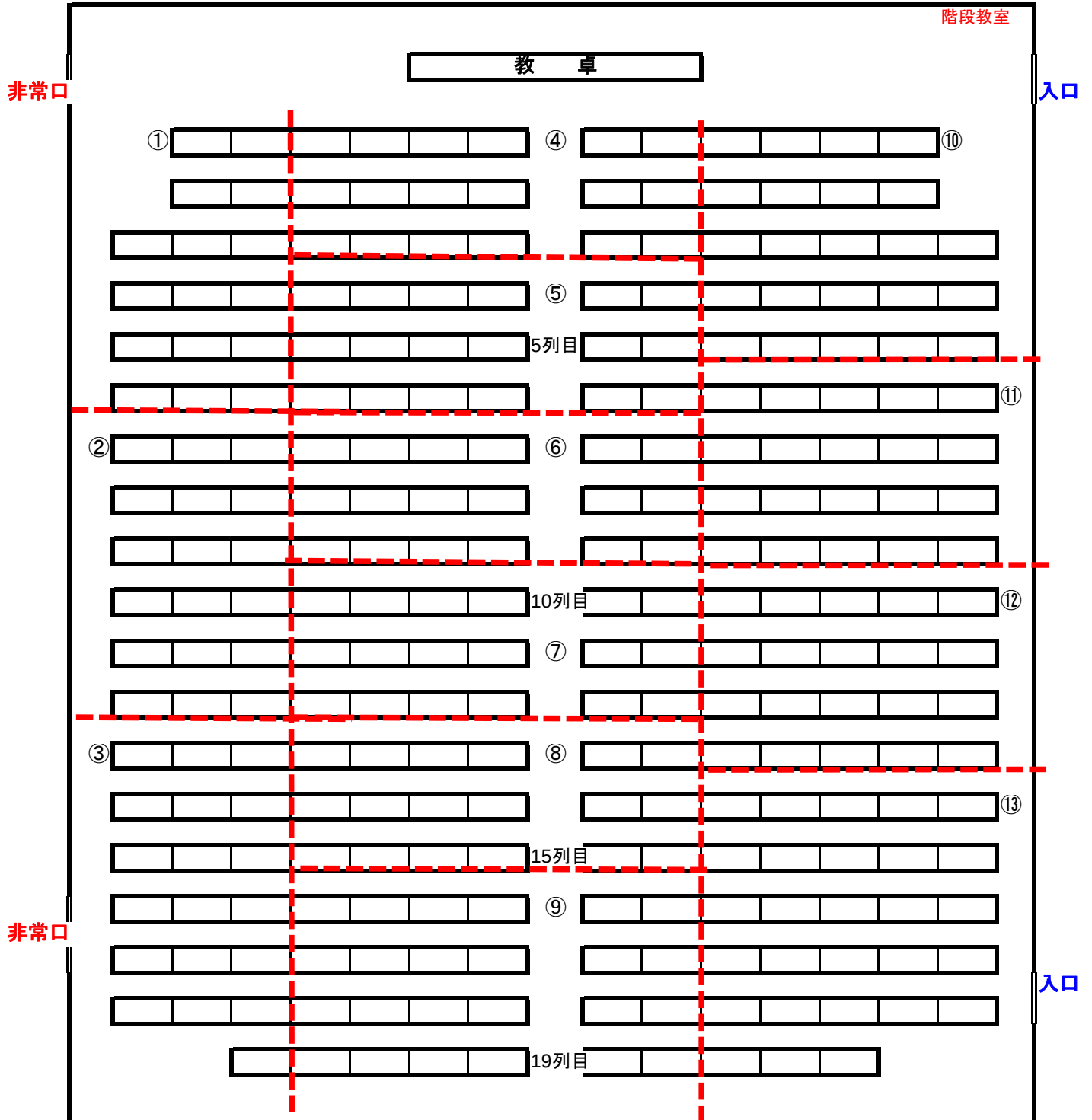
階段教室



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/5(木)4共21

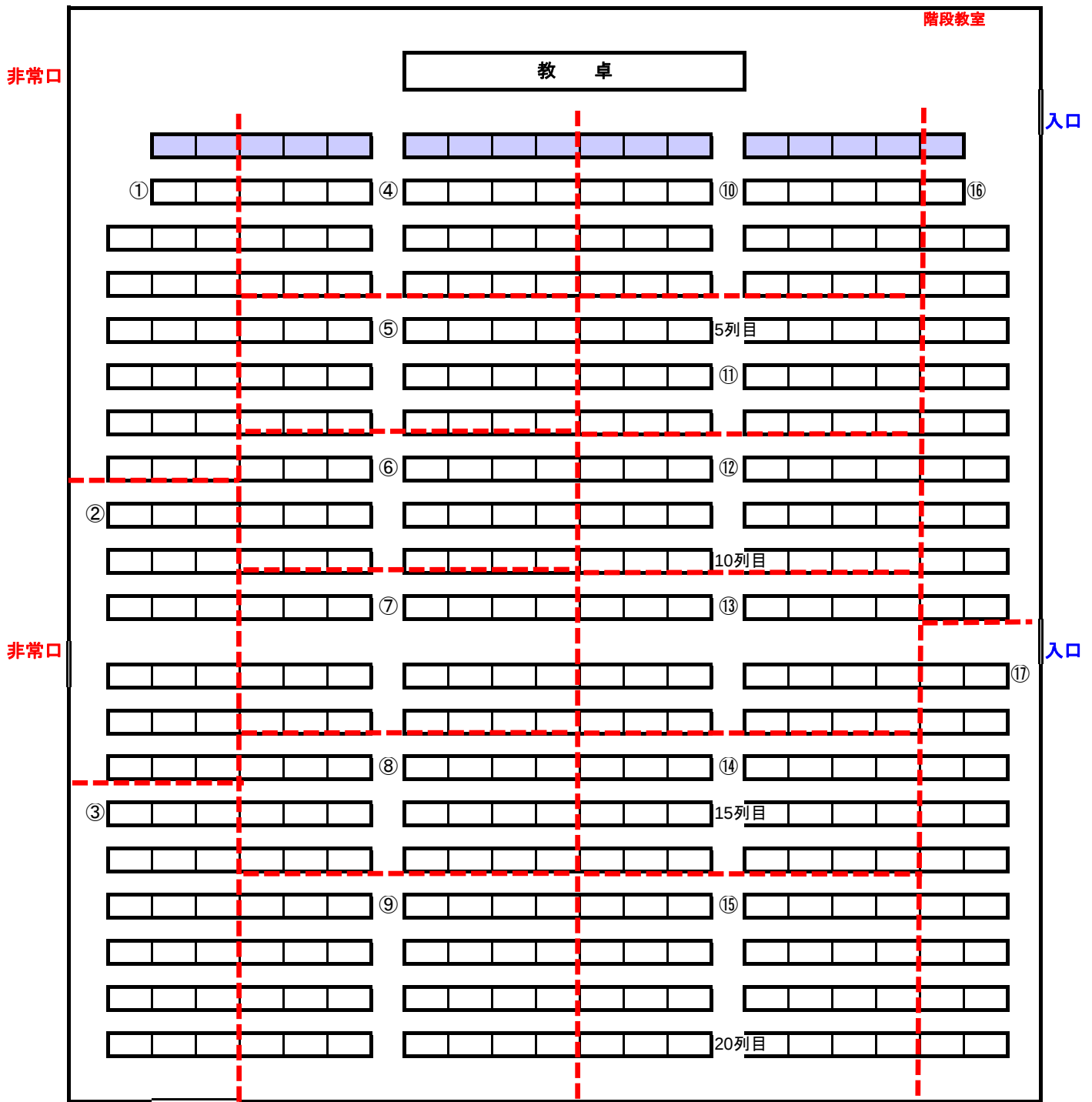
定員 258
予定人数 242



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、机の列番号を意味しています。

4/5(木)4共30

定員 376
予定人数 325



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく機の範囲を赤の破線で示しています。
数字は、機の列番号を意味しています。
■: 可動機は使用しない。

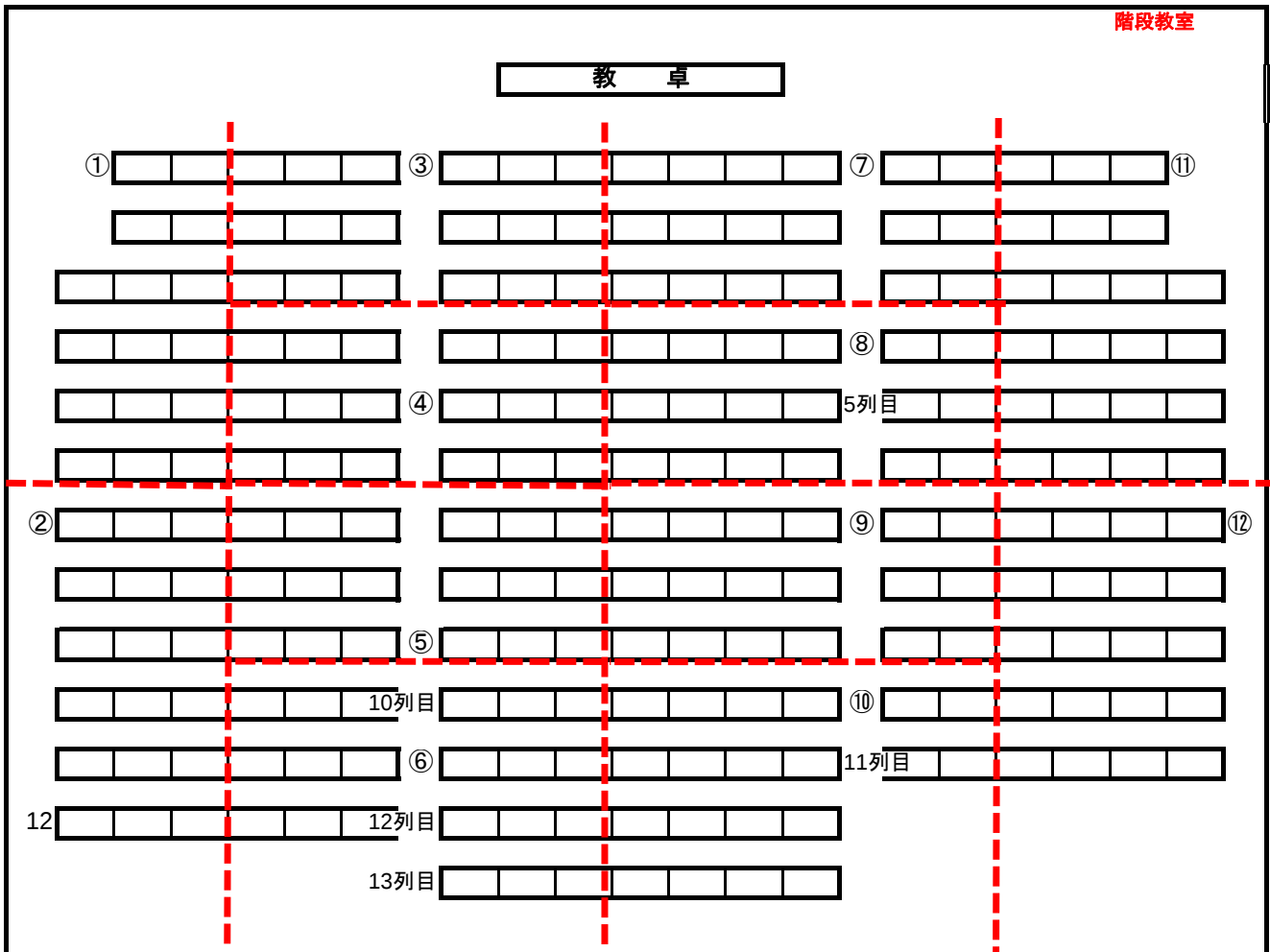
4/5(木)4共31

定員 225
予定人数 177

入口

階段教室

非常口



○に囲まれた数字は、サポートスタッフ番号を意味し、担当していただく机の範囲を赤の破線で示しています。非常口
数字は、机の列番号を意味しています。

X. 体調不良、怪我など

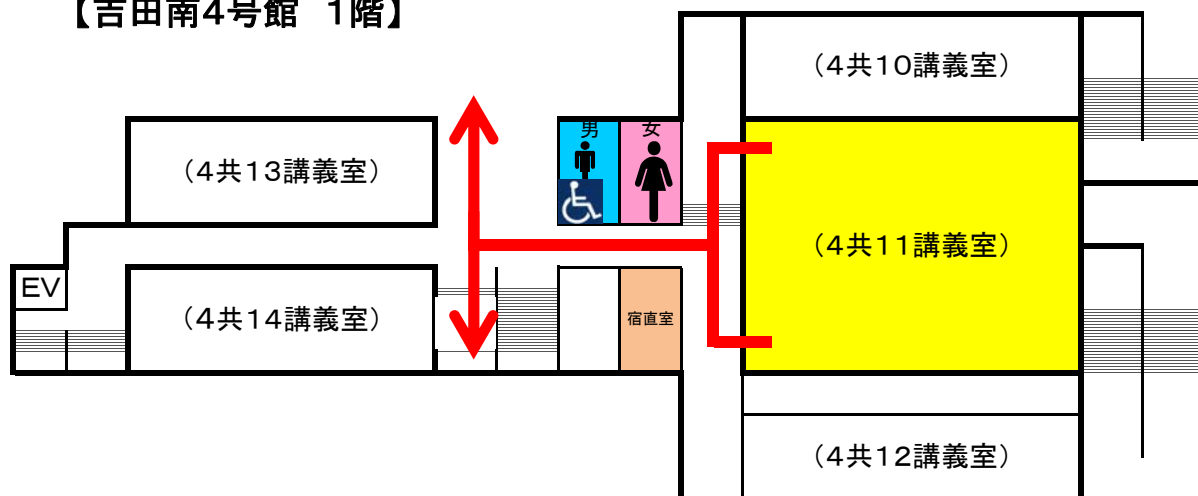
1. 4 共 14(1F)は、スタッフの控室兼、救命講習会中の救護室にしており、応急手当物品、担架、車いすを準備しています。控室には、看護の教員が 1 名待機しています。
2. 各部屋に救急部の医師が一人はサポートスタッフとしていますので(座席番号③)、何かあれば救護を求めて下さい。
3. 慣れない環境で、緊張状態の中、長時間に渡るガイダンスを受けています。講習会中、もし気分が悪い学生が出ましたら、無理に講習を継続させる必要ありません。疲れる学生も出るかもしれません。そのような場合は、座席で休むように伝えたり、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導していただいても結構です。
4. 講習会中盤に、2 人一組になって胸骨圧迫の交代の練習をする場面がありますが、ここで学生同士がぶつかる可能性があります。インストラクターが移動の向きを指示しますが、万が一けがをした場合は、その学生のみ講習会を中断させて 4 共 14(1F)へ誘導して下さい。

XI. 地震・火災等避難方法

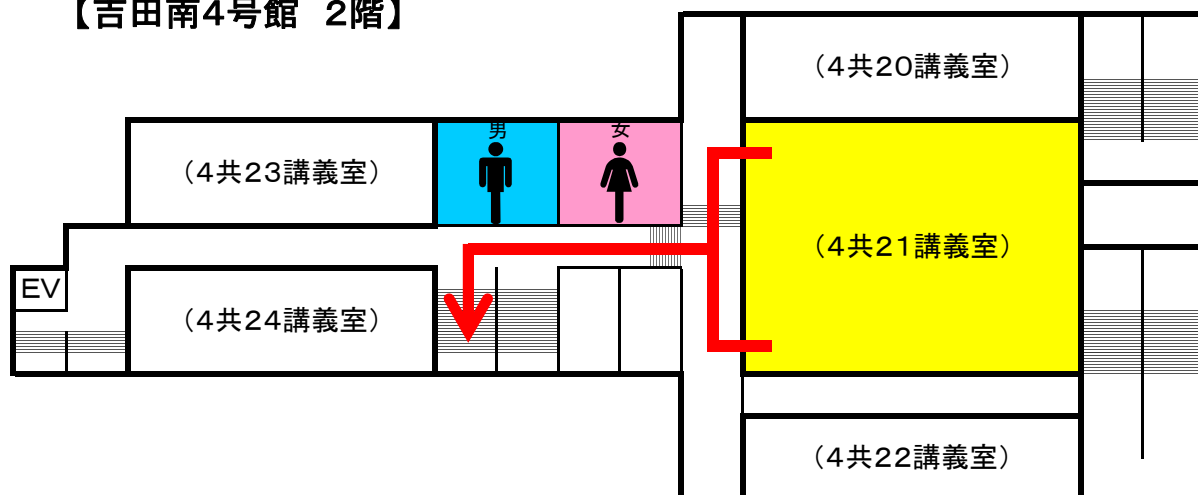
万が一、講習会中に地震・火災等の緊急事態が行った場合は、インストラクターの指示に従い各部屋の非常口(4 共 30、4 共 31 は東側(窓側))から避難するよう学生を誘導して下さい。各部屋の配置図に赤字で「非常口」と記載しております。(次ページ避難経路参照)

吉田南4号館 避難経路図

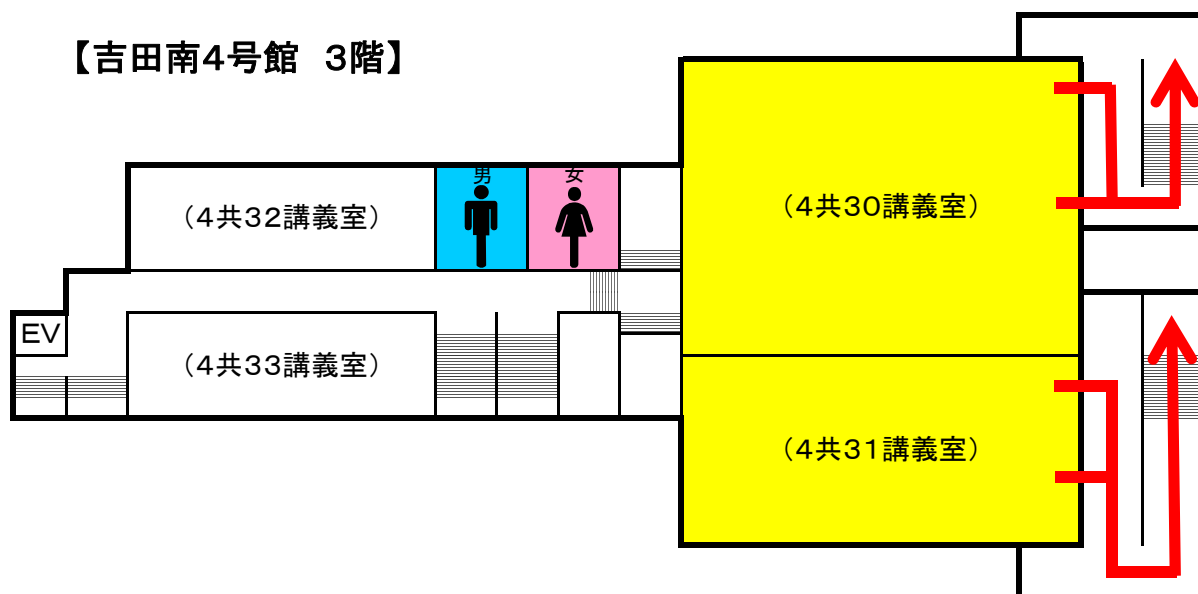
【吉田南4号館 1階】



【吉田南4号館 2階】



【吉田南4号館 3階】



H30 年度新入生 3000 名への救命講習会の計画立案、運営、サポートスタッフ手順書作成は、下記の救命救急講習 Project TEAM メンバーが行いました。

【救命救急講習 ProjectTEAM メンバー】

チームリーダー	石見 拓（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
サブリーダー	黒木裕士（医学研究科・人間健康科学系専攻・教授）
チームメンバー	馬場正昭（理学研究科・化学専攻物理化学講座・教授）
チームメンバー	川村 孝（環境安全保健機構 健康科学センター・教授）
チームメンバー	小池 薫（医学研究科・初期診療・救急医学分野・教授）
チームメンバー	田中真介（国際高等教育院・准教授）
チームメンバー	内藤知佐子（医学部附属病院 総合臨床教育・研修センター・助教）
チームメンバー	佐藤隆平（医学研究科・人間健康科学系専攻・助教）
チームメンバー	小林大介（環境安全保健機構 健康科学センター・助教）
コーディネーター	西山知佳（医学研究科・人間健康科学系専攻・講師）